

放課後等デイサービス自己評価表

令和4年度
特定非営利活動法人とこっ子 野花

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	改善目標・工夫している点等
環境・ 体制整備	1	利用定員は指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	75%	25%		法定基準は十分満たしているが、階や部屋が分かれている関係で一つづつが広いとは言えない。フロアを活動内容で使い分けるなど出来ることはメリットとなっている。公共の施設を利用するなどしている。
	2	職員の配置(人数)や専門性は適切であるか	100%			利用児童の人数に対して、十分に職員も人数が確保されている。様々な学びの場があり、専門性も向上が図られている。
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置など利用児の必要に応じた配慮が適切になされているか	100%			利用児童の状況・特性等に応じ、常に環境(設備)の再考がされており、必要に応じ、追加等されている。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか	100%			週一会議や他の機会をとらえて、児童の状況や事務作業の効率化・を話し合っている。
	5	保護者向け評価表等アンケート調査を実施して保護者の意向を把握し、業務改善に繋げているか	100%			毎年行っている。
	6	この自己評価の結果を、お便りやホームページ等で公開しているか	100%			している。
	7	第三者(外部委託によるものや同職種、関係機関等の訪問、見学会等からのフィードバック)による外部評価を行い、評価結果を業務改善に繋げているか	100%			見学会を年間通して行っており、そこからのフィードバックを受けている
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%			OJT OFF-JT さらに外部講師による研修会や、資格取得のための研修への参加、スキルアップの為に全社協主催の人材育成研修への参加・研修の機会はともも多い。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	100%			様々な角度からのアセスメントツールを用い、全職員参加の元、課題分析や支援内容への評価を行い個別支援計画の作成につなげている。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	100%			数種類のツールを使用し、利用児の理解につなげている。
	11	行事や活動プログラムの立案、共有、実施するための検討をチームで行っているか	100%			職員全員で意見を出し合い、決めている。法人全体で行う行事などは実行委員会が設置され年間計画を立て取り組んでいる。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%			固定化された一定のプログラムは存在しない。個別の活動を含め、その時点での子どもの発達や課題を加味して個々に合ったプログラムを立てている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じ課題を決め、細やかな支援を行っているか	100%			学校休業日は時間も長くとれることから、お出かけや作成等の普段できない活動を取り入れている。
	14	子どもの状況に応じ、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで個別支援計画を作成しているか	100%			個別で行うプログラムも多くあるが、集団からの習得が不可欠なスキルもあることから、個々の状況を加味したうえで両者のバランスを図った計画を立てている。
	15	支援開始前に職員間で必ず打ち合わせをし、支援の内容や役割分担について確認しているか	100%			毎日行っている。
	16	支援終了後には、職員間で支援の振り返りを行い、気づいた点を共有しているか	100%			毎日行っている。振り返りに参加が難しかった職員とは、情報共有ファイル・を使って気づきの共有を行っている。
	17	日々の支援に関し正しく記録をとる事を徹底し、検証・改善に繋げているか	100%			毎日の振り返りを文書・データに残し、会議での話し合いや個別支援計画に活かしている。
	18	定期的にモニタリングを行い個別支援計画の見直しの必要性を判断しているか	100%			
	19	ガイドラインの総則の基本活動(自立支援・日常生活充実のための活動・創作活動・地域交流・余暇提供)を複数組み合わせることで支援を行っているか	100%			
	20	学校との情報共有(年間予定下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡等)を適切に行っているか	100%			
	21	相談支援事業所の(サービス)担当者会議に子どもの状況に精通した者が参画しているか	100%			管理者が参加している。
	22	就学前に利用していた保育園・児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	100%			
	23	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	100%			

関係機関や保護者との連携	24	児童発達支援センターや発達障害者支援センター、他の福祉サービスや医療機関等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	100%		医療機関や大学と連携し、研修や実習の受け入れを積極的に行っている。
	25	利用者が地域の子どもたちや他の利用者のご兄弟たちと、活動や交流する(触れ合う)機会があるか	100%		とこフェスやインクルージョン展…、交流の機会を設けている。
	26	管理者や児童発達支援管理責任者は、自立支援協議会(常滑市の関係機関が集まり、地域課題の共有とサービスの整備を協議する会議)へ積極的に参加し、それを他職員へ共有しているか	75%	25%	コロナ等の影響もあり、子供ぐ会での協議内容が、新一年生への事業所紹介で終わってしまっておりそのほかの共有はなかったため、少し印象が薄くなっていったと思われる。
	27	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%		送迎時のお話や連絡帳などを通して保護者様と情報の共有を行っている。希望者には随時療育面談も行っている。
	28	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニングや知識付与の勉強会等、支援を行っているか	100%		毎月6回の保護者研修を行っている。又、年2回は、外部から専門職を招いての研修会も行っている。
保護者への説明責任等	29	管理者等は運営規程、支援の内容、利用者負担等を保護者の方へ契約時に丁寧な説明を行い、他職員もその内容について説明することができているか	100%	25%	すべての職員が説明を行えるかは分からない。
	30	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%		
	31	父母の会(親の会)の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携(横のつながり)を支援しているか	100%		親の会が活発に活動しており、茶話会や他施設見学会などを行い交流の場を設けている。
	32	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者にそれを周知し、苦情があった場合には迅速かつ適切な対応がとれる準備ができているか	100%		苦情ではないが、子育ての困難さなどの思いを受け止めて寄り添えるように心がけている。
	33	定期的にお便り等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%		
	34	個人情報に十分注意しているか	100%		個人の名前等が記載された書類は、事業所内から持ち出すことなく、鍵付き書庫に保管している。廃棄する際はシュレダーにて処理している。
	35	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%		
	36	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	75%	25%	コロナ禍でもあり、地域に大きく開くことは難しかったが、利用児の関係者は行事に参加してもらっている。
非常時等の対応	37	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員はもちろんのこと保護者の方にも面談時や何らかの連絡ツールによる周知を図っているか	100%		
	38	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	100%		
	39	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%		虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会 が動いており虐待防止研修(権利擁護研修含む)を法人で 年二回行っている。
	40	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、個別支援計画に記載しているか	100%		必要な場合には、保護者への説明を行い、書面での同意を得ている。
	41	子どもの食物アレルギーの有無について聞き取りを行い、保護者の方や医師の指示等に基づく対応がされているか	100%		
	42	ヒヤリハット事例集(記録)を作成して事業所内で共有しているか	100%		